

水田たより 3月号

令和6年3月1日

JA みえきた

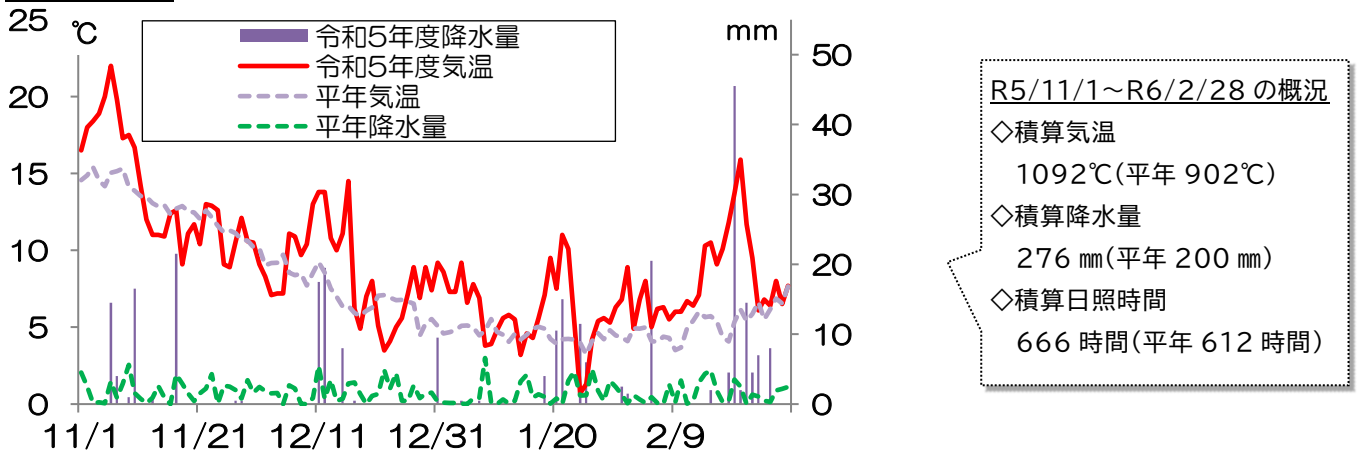
桑名地域農業改良普及センター

麦

生育状況と追肥について

11月上旬から2月中旬にかけて気温が全体的に高く推移し、降水量、日照時間も高くなっています。そのため、平年と比べて生育が早いほ場が多くみられます。特に11月上旬は気温が高かったため、11月上旬播種のほ場では、気温の高く推移した昨年と比べても、生育が早くなっています。

○気象状況



○生育状況

地域	品種	播種日	3カ年平均との比較			
			茎数	草丈	葉齢	葉色
桑名・木曾岬	小麦「さとのそら」	11/14	少	同程度	同程度	やや薄
いなべ・東員	小麦「あやひかり」	11/2	少	大	早	やや薄
	大麦「ファイバースノウ」	11/5	同程度	大	早	同程度

○分施の場合の追肥

種類	内容	時期	窒素目安量	施用量 (N=14%の場合)
小麦・大麦	2回目の追肥 (登熟歩合向上・粒の充実向上)	3月上中旬 (<u>止葉抽出始期</u>)	1.5~2kg/10a	10~15kg/10a

※大麦は、施用量が多かったり、時期が遅いと、硝子粒の増加につながるため、適期適量の施肥を心がけましょう。

麦

赤かび病の防除について

出穂期以降は赤かび病の感染リスクが高まります。令和5年産では気温が高かった影響で生育が早く、3月末から4月上旬にかけて出穂しています。今年も平年と比べて気温が高いことから、**早ければ出穂が3月末ごろから**始まる可能性があります。

薬剤防除は**出穂から7~10日後**に行い、発病する前の**予防防除**を心がけましょう。2回目防除を行う場合は**1回目防除の7~10日後**が目安です。

水稻

田植え前の重要作業！！代かきについて

代かきは、水稻栽培において最も重要と言っても過言ではない作業になります。ほ場に合わせて回数を調節し、丁寧に行いましょう。代かきの効果として、田面の均平をとる、雑草などを埋め込む等があります。ほ場の均平をとることで初期除草剤の効果が十分に発揮され、雑草対策になります。また、稲の生育が一定となり生育ムラを無くすことができます。

水稻

水稻初期の病害虫対策

病害虫

①ニカメイチュウについて

幼虫は稲ワラや刈り株などで越冬します。近年、管内ではいなべ市・東員町を中心に発生がみられます。第1世代は4月下旬から7月上旬に、第2世代は7月中旬から発生し、水稻は食害によって葉鞘が黄褐変し、心枯れを生じます。



ニカメイチュウ

②ウンカについて

桑名管内では、令和2年度にウンカ類による多くの被害がありました。一部のウンカ類は6月から7月に中国大陸からジェット気流に乗り飛来します。増殖力が強く、短期間で世代を繰り返す、個体数を増やします。発生が多いほ場では坪枯れを生じます。



ウンカ類の被害

③いもち病（苗いもち）について

苗で発生したいもち病は、田植えを行うと一時的に回復する場合がありますが、菌はほ場に侵入し、その後の生育に大きな影響を与えます。

対策

いずれの病害虫も対策には、初期段階での防除が効果的です。箱粒剤を使用し予防的防除を行いましょう。また、いもち病に感染した苗は移植せず、ほ場に近づけずに処分しましょう。

獣害対策

水稻作付前に！防護柵の点検・補強

獣害による農作物被害を防ぐため、中山間地域では防護柵設置の取組が進んでいます。防護柵は気づかないうちに破損や隙間が生じてしまう恐れがあるため定期的な点検・補強が肝心です。

雑草の絡みつき



柵に植物が絡みついている
⇒破損や隙間を見逃す恐れ
があります。風を受けやすく柵が倒れる危険も。

くぐり抜けの恐れ



柵と地面の間に隙間がある
⇒イノシシはくぐり抜けが得意で少しの隙間から潜り込みます。パイプや竹で下部を補強しましょう！

鉄パイプで補強



過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページで
ご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索